

日通コンテナーマッチングセンター 取組状況について

日本通運株式会社 海運事業部
ロジスティクス企画

2014/11/28

With Your Life



日通マッチングセンターの取り組み状況について

1)コンテナマッチング開発事例

①関東地区開発事例

②中部地区 実例「Over sea Matching」

③JR鉄道利用提案

2)見えてきた課題と対処方法

3)地方自治体との情報交換

4)デポ設立

5)マッチングシステム開発

6)マッチング保険開発

1) コンテナマッチング開発事例

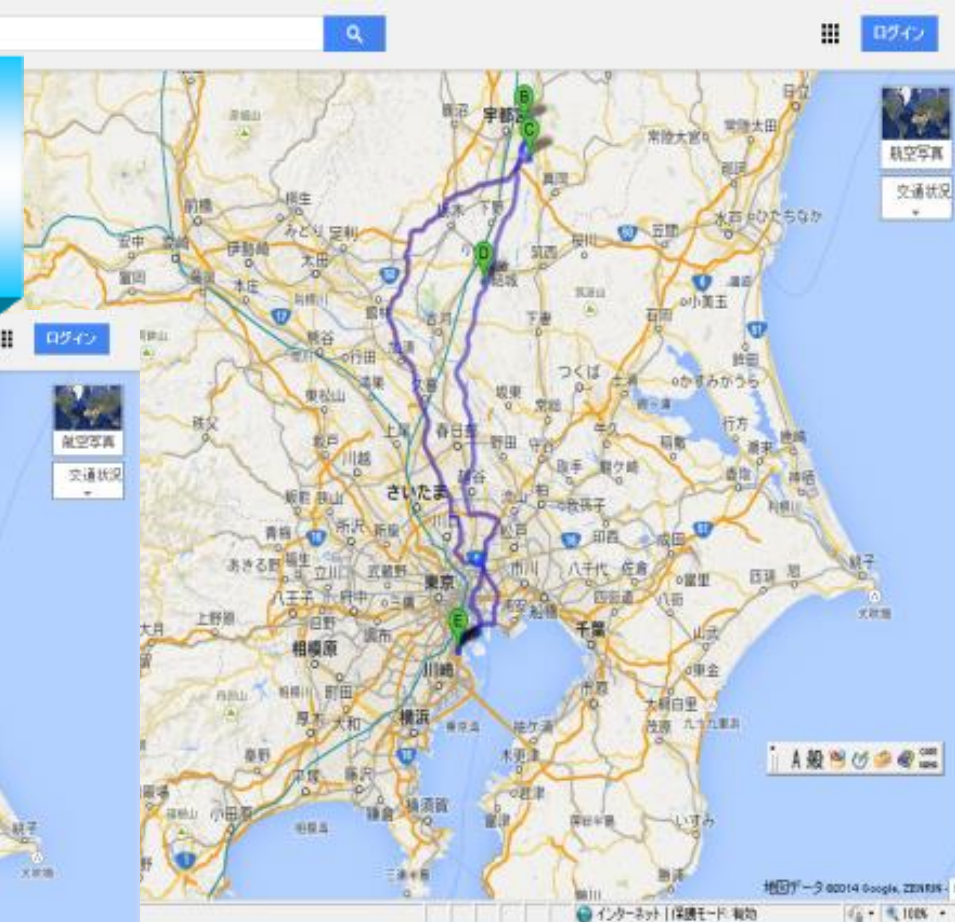
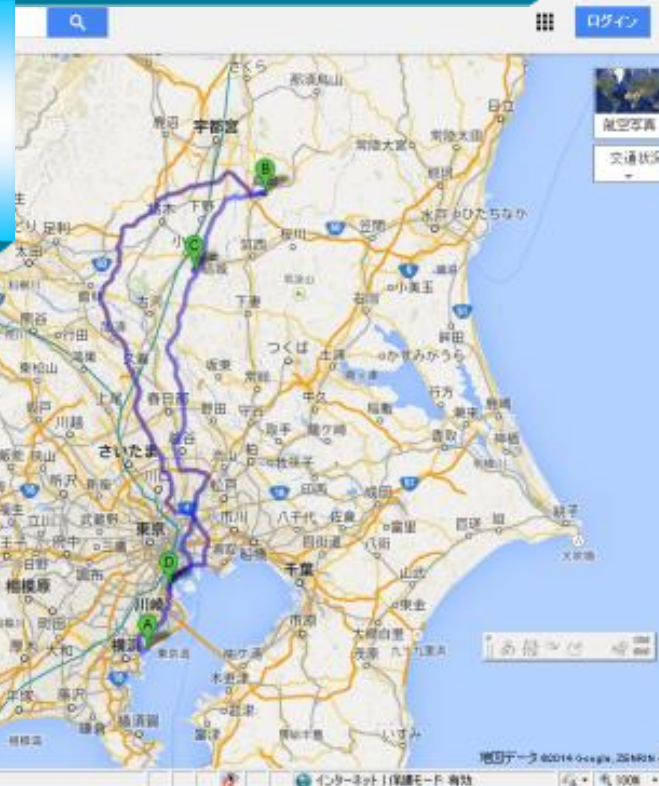
その①: 北関東地区 開発事例

輸出入マッチング

東京港⇒宇都宮DC⇒デポ⇒北
関東工場⇒東京港

輸出用空コンテナの国内転用

東京港⇒真岡工場⇒北関東
工場⇒東京港



<ポイント>

★最適デポの確保(ICD/輸送会社) ★協業事業者の相互理解と調整。実現できるスキームの構築。

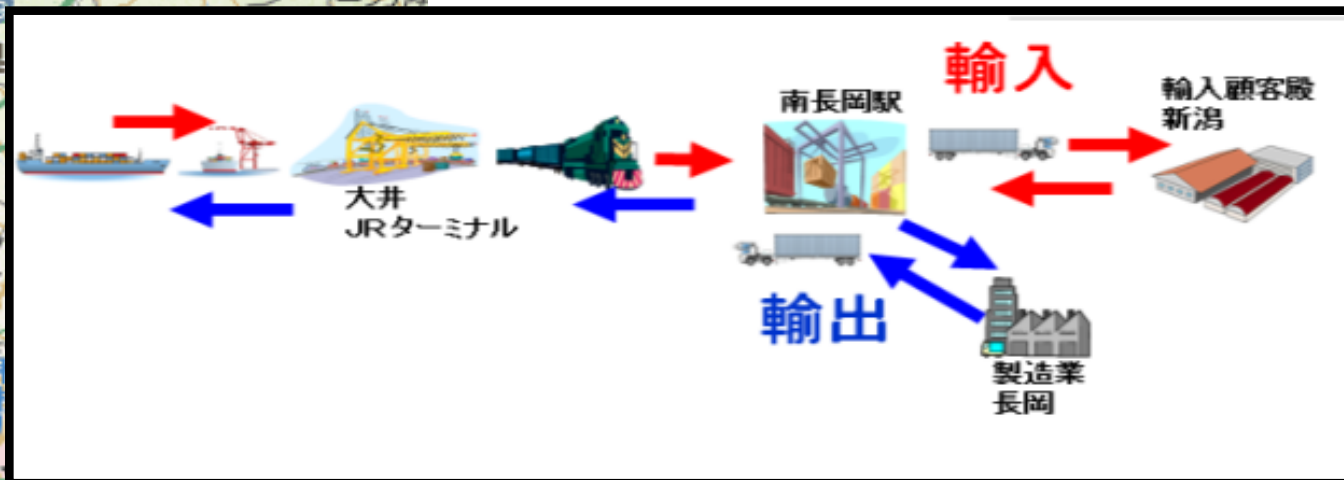
その②: 中部地区開発事例 – Overseas matching



その③: JR鉄道利用開発事例



- <ポイント>
★鉄道利用エコ輸送
★CO2 &コスト削減



2)見えてきた課題と対応方法

1. 同一荷主の輸出入でない限り、オペレーションを組立てる為にはデポまたは同様の機能を有する施設が必要だが、当該の機能を使用できない。(近隣に存在しない。また起用するデポが起用する船社との契約を持っていない)

デポがあって船社側の問題がある場合、マッチングセンターが仲介に入り、デポとの契約を推進いただく。デポが存在しない地方の場合は、デポ機能を持たせることのできる業者や当社施設をリサーチの上、組み立てを図る。

2. 顧客内における取組に対する温度差。(調達担当、販売担当、現場)

顧客内で打ち上げられたRU推進社内会議などへの参加を要請し、提案資料による効果を顧客関係部署に共有いただき総論でのコンセンサスを取得。各論においての協議の場にも極力参加させていただくことで実務面の調整面においてサポートを行う。

3. ドレージ会社のラウンドユースへの理解が不十分。

ESCOTとの共催で実施しているドレージ会社との交流会を通して、ラウンドユースの必要性のみならず現状と当社の取組を正しく理解いただき、協業を訴えかけていく。

4. 船会社のラウンドユースやICDへの理解、デポ契約面での温度差。(邦船系、中国系、欧米系)

個別訪問やセミナーなどを通して、現状と当社の取組を理解いただき、協力を要請していく。どうしても協力いただけない船社については、他船社へのシフトも視野に入れ、顧客折衝を実施。マッチング率を向上させていく。

5. 国内転用における、コンテナ内作業・保定作業分担。

基本的にはコンテナ荷役作業については、倉庫・工場側負担にて話を切り出すが、柔軟に検討していく。

2)見えてきた課題と対応方法

6. 輸出・国内転用への充当する空コンテナの定期性。

単独輸入荷主のみでなく、社内外の輸入者をも検討対象として考えていく。

7. 国内転用検討時における問題： 国内物流センター、工場の多くは高床フォームを有していない。

トライアルはハンドリフトにて。レビューで効果検証の上、スロープの設備投入を顧客が検討。

8. ドライバーの拘束時間は13時間／日(週二日までは16時間／日)これでは主として深夜に動く幹線輸送の国内転用は困難。

法令上の拘束時間を考慮に入れたマッチングを検討する。

9. 法規制：経路申請許可に要する時間(現在首都圏で一か月半)。96コンテナにおいては制限外申請許可(二週間)が必要とされる。

法規制上の許可取得にかかわる時間短縮については、国交省との面談時にも検討要請事項として挙げさせていただいている。

- ・国土交通省
- ・経済産業省
- ・茨城県
- ・佐野市
- ・東京都
- ・埼玉県
- ・川崎市
- ・横浜市
- ・大阪市
- ・神戸市
- ・熊本県
- ・福岡県

- ★マッチングセンター取組 & 進捗説明
- ★意見交換会等、開催 & 参加
- ★物流セミナー企画 & 開催
- ★推進協議会開催
- ★共同体結成 & 登録
- ★都市計画意見交換（物流同線 & デポ）
- ★助成金 & 支援金
- ★普及 & 啓発活動会の開催

4)「新」デポ設立

① 亀山サテライトデポ



所在地: 〒519-0221
 三重県亀山市辺法寺町
 字網中358番地4
 TEL: 0595-85-2511

<機能>

★切り替え (輸入→輸出)

チェック・清掃・

★時間 (タイミング) 調整

② 橋本サテライトデポ



所在地: 〒252-0253
 神奈川県相模原市中央区
 南橋本4-2-4
 TEL: 042-703-7200

5) マッチングシステム開発

GLOVAL CONTAINER MATCHING SYSTEM

コンテナマッチング支援ソリューション (ESCOT協業)

— より最適なマッチングを より体系的なアプローチで —



GCMS – その機能と役割

- より最適なマッチング支援

協業事業者のデータベースからなる日本最大の輸入コンテナマーケットからエリア別に最適なトラフィックと最適ロケーションのデポを共に検索

- ラウンドユースに関わる官民最新情報をワンストップで入手

行政の支援策、協業事業者の新規デポ情報等、ラウンドユースに関わる最新情報をGCMSで一元管理、協業パートナーにシェアされる

- マッチング組立てを実践するエキスパートの養成ホームとして

マッチングを推進していくエキスパートの養成と認証

- レポート機能

マッチング率、CO2削減効果を定量的効果としてアウトプット。横展開すべきマッチング成功事例を解析紹介。

- 共有機能

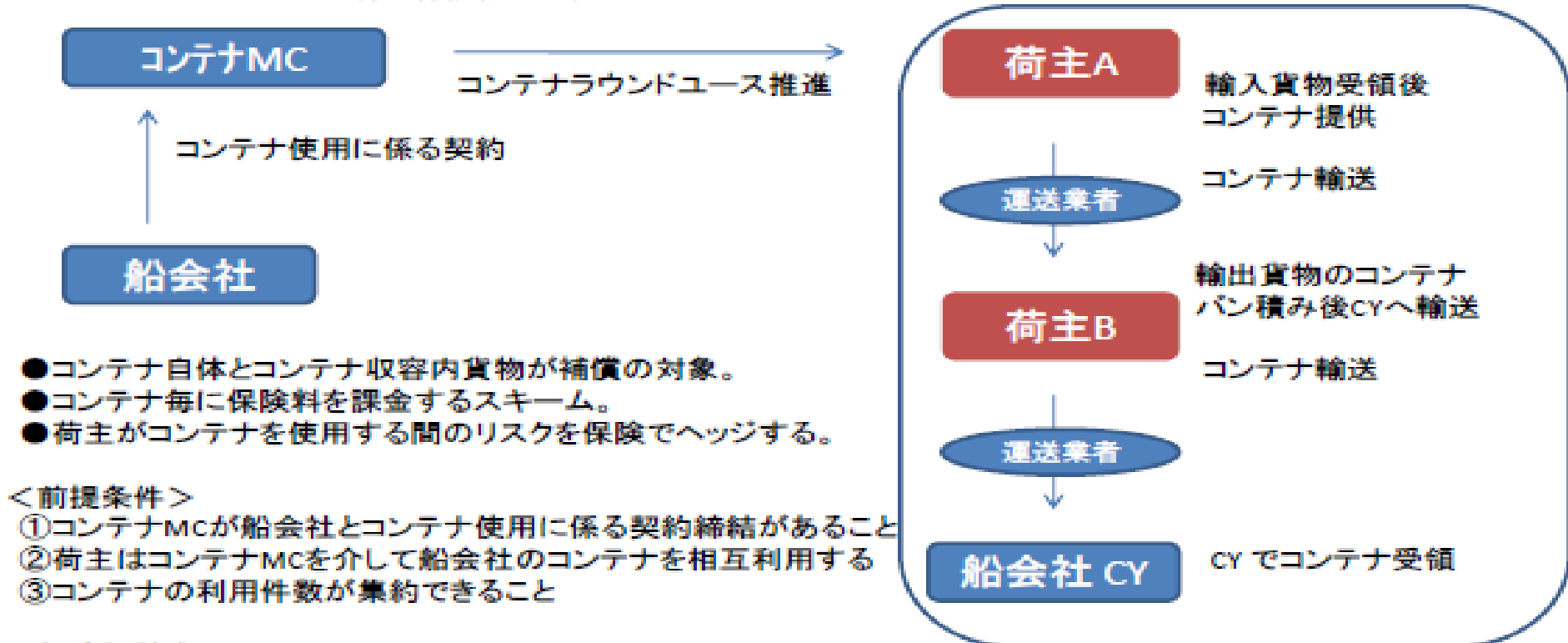
多言語での発信による海外との情報共有。グローバルレベルでの輸出入海上輸送のラウンドユース検討における支援機能

GLOVAL CONTAINER MATCHING SYSTEM

| | 2014年9月 | 2014年10月 | 2014年11月 | 2014年12月 | 2015年1月 | 2015年2月 | 2015年3月 |
|---|---------|----------|----------|----------|---------|---------|---------|
| メニュー検討 | | | | | | | |
| 協業事業者別、権限設定 権限別公開内容検討 EDILレイアウト検討 | | | | | | | |
| 仕様書作成 | | | | | | | |
| ロジック開発 | | | | | | | |
| テスト | | | | | | | |
| 稼働 | | | | | | | |

マッチング推進者を守る

コンテナラウンドユースに係る保険設計(案)



- コンテナ自体とコンテナ収容内貨物が補償の対象。
- コンテナ毎に保険料を課金するスキーム。
- 荷主がコンテナを使用する間のリスクを保険でヘッジする。

<前提条件>

- ①コンテナMCが船会社とコンテナ使用に係る契約締結があること
- ②荷主はコンテナMCを介して船会社のコンテナを相互利用する
- ③コンテナの利用件数が集約できること

<保険設計案>

- コンテナMCが契約者となって、荷主・運送業者・コンテナMCを被保険者とした貨物賠償責任保険契約の締結。
- コンテナ毎の使用件数によって、保険料金を課金します。
- 荷主がコンテナラウンドユース(コンテナ使用)件数で保険料をコンテナMCに支払います。
- 毎月の実績報告はコンテナMCが集約して保険会社へ報告します。

※荷主と船会社でコンテナ利用の調整が完了する事案は対象外となります。



お問い合わせ先

日本通運株式会社

海運事業部 ロジスティクス企画グループ

担当：犬井・宮崎・安田

電話：03-6251-1620

Mail : ta-inui@nittsu.co.jp

ma-miyazaki@nittsu.co.jp

ge-yasuda@nittsu.co.jp